

# 地域おこし協力隊 活動記 Vol.37



相馬担当地域おこし協力隊の北野です。素晴らしい季節になりましたね。わは、新緑が鮮やかで木々の勢いを感じる津軽の初夏が大好きです。

そんな津軽に、今年も彼らが学びに来てくれました！今号では、5月28日（月）、初夏の相馬を訪れた弘前大学交換留学生の校外授業の様子をご紹介します。

学生たちは、カナダ、アメリカ、フランス、ニュージーランド、タイ、中国、韓国から来日し、半年〜1年の間弘前で日本を学ぶ短期交換留学生。月に一度、校外に出て自然と文化を学んでいます。校外授業最初の体験は、沢田地区にての田植え。初めての田んぼに大苦戦しながらも、土の感触を楽しんでいたようです。まずは、日本の食の礎となる米の文化について学びました。

次は、五所のつりぼりにて「オニテナガエビ釣り」。改良された3本針のせいと意外と簡単そうに釣り上げていましたが、時間切れで最後はつかみ取り。実は、これが一番盛り上がりつつありました。

最後は、ロマントピアにて和食調理実習。釣ったエビを食材にした味噌汁と五目ちらしずしの作り方を一通り教わり、さあ調理！慣れぬ手つきで作った和食は、失礼ながら意外にもおいしかったようで、自己申告「グッド」の出来あがりが多かったです。

協力隊員は学生に同行し、彼らが相馬を好きになつてくれるよう心をこめておもてなし。異国の地相馬での楽しい思い出を、彼ら自身から自国の友に伝えられるよう、その姿を撮りためプレゼントしました。

初夏の相馬を存分に体験していった彼らは、また6月にも相馬を訪れる予定です。今度は、どんな体験が待っているのか。母国で日本語を学んでから来弘している彼らなので、見かけたら気軽に声をかけてあげてくださいね。相馬での校外授業はとても人気があるようですよ。へばー！